

# 動物園における校外学習の実態と課題 ～仙台市八木山動物公園の事例から～

齊藤千映美\*・田中ちひろ\*\*・松本浩明\*\*

Zoo Excursion and Learning by School and Preschool Children in Sendai City

Chiemi SAITO\*, Chihiro TANAKA\*\* and Hiroaki MATSUMOTO\*\*

**要旨:** 仙台市八木山動物公園を活用する幼稚園・保育所・小学校に対してアンケート調査を行い、利用の実態を明らかにした。グループ活動が中心の低学年児童の校外学習、活動時間が短い高学年児童の修学旅行、人数の多い幼稚園の遠足など、利用にはいくつかのパターンが見られた。動物園が学校等の教育活動において一定の役割を果たしていることがわかった一方、数多くの課題や要望があることも明らかになった。

**キーワード:** 動物園, 校外学習, いのちの教育

## 1. 序論

仙台市八木山動物公園（以下、八木山動物園）は、1936年（昭和11年）に開園し、現在は仙台市太白区の八木山地区に位置する市立の動物園として、広く市民に親しまれている。年間の来園者は50万人弱と、東北地方では最大規模の動物園でもある。5月をピークに、年間を通じて多くの来園者があり、学校園などによる団体利用も春から秋を中心に広く行われている（仙台市八木山動物公園, 2012）。2014年（平成27年）には、東北地方の交通の起点である仙台駅と仙台市営地下鉄東西線で結ばれることになり、さらに来園者が増えるとも予測されている。

動物園は社会教育機関であり、教育活動は動物園の存在理由の1つである。社会の急速な変化とともに教育環境が大きく変わり、国内の動物園水族館がより質の高い展示や学習活動に取り組む中で、来園者のニーズに応えるためには、どのような学校等が、何を目的として動物園を訪問しているのか、どのような教育活動が求められているのかなど、動物園は常に課題を明

確にするための検討を必要としている。

筆者らは、八木山動物園を活用する学校等の実態や要望を把握するため、2013年（平成25年）、同動物園を利用する小学校・幼稚園・保育所に向けて、同動物園の活用の実態や要望についてのアンケート調査を実施した。

## 2. アンケート調査の概要

調査時期は、2013年（平成25年）8月1日から31日である。アンケートの対象は①仙台市立保育所（48園）と市内の認可保育園（85園）、②仙台市内の幼稚園（95園）、③仙台市内小学校（126校）、および④仙台市外の小学校のうち、平成24年度に同動物園を利用した学校（115校）である。

アンケートの全体の回収率は70.6%であった。内訳は、①の保育所が89件（66.9%）、②の幼稚園が53件（55.8%）、③の市内小学校が1161件（92.1%）、④の利用歴のある市外小学校が73件（63.5%）である。なお、この市外の小学校の内訳は、宮城県27校、福

\* 宮城教育大学環境教育実践研究センター, \*\* 仙台市八木山動物公園

島県 19 校、岩手県 17 校、山形県と秋田県がそれぞれ 5 校であった。

### 3. アンケートの質問内容

本アンケート調査の質問項目は、大きく 3 つに分けられる。1 つめは、利用の理由や実際に利用した時に行った活動などについての質問群である。利用の有無と理由、教育課程上の位置づけ、訪問時の活動内容、活動時間数、事前事後学習の内容などについての調査を行った。

2 つめは、活用の感想や要望を尋ねる質問群である。具体的にはリーフレットや案内看板、動物の展示方法、イベント、情報提供などについて、学校園のニーズを知ることを目的とした質問を行った。また、動物園学習への満足度、意義などを尋ねた。3 つめに、ふれあい動物や飼育動物に関する質問群である。八木山動物園は「ふれあい動物園」を平成 27 年度に開園する予定で、準備を行っている。この施設の計画にあたり、学校側のニーズや期待を把握する目的で、いくつかの質問を設定した。

アンケート調査の目的は今後の動物園の活動に反映させていくことであり、本稿では回答の一部のみを分析する。アンケート全体の様子を末尾に参考資料として掲載する。

## 4. 結果分析

### 4-1. 動物園利用の実態

(結果) 仙台市内の学校園等のうち、平成 24～25 年度に八木山動物園を訪問した(する予定である)と回答した学校園は、小学校のうち 91%、幼稚園のうち 71.2%、保育所のうち 33.7%であった(図 1)。

このように、仙台市内の幼稚園・小学校の多くが、

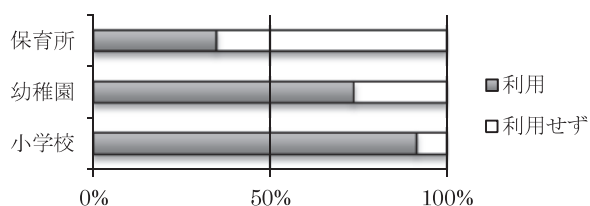


図 1. 市内学校等による平成24/25年度の動物園利用のあるなし

2 年間の間に動物園を学習活動に利用していることがわかった。なお、「利用しない」と答えた仙台市内の 10 の小学校のうち、少なくとも 6 校は、「3 年または 4 年を 1 区切りとして校外学習の訪問先をローテーションしており、八木山動物園を利用する年がある」と回答している。そこで、これらの学校を加えると、仙台市内の小学校のうち 96.6%は、毎年または何年かに 1 度の割合で、八木山動物園を訪問していることがわかった。

同様に、得られた回答から見る限りは、市内の幼稚園では 79.2%、保育所 53.8%が、毎年、あるいは何年かに 1 度の割合で、八木山動物園を訪問していることがわかった。

1 回に訪問する児童・幼児の数の平均値は、引率者を除くと、小学校で 73 名、保育所で 49 名であるのに対して、幼稚園は 129 名と極めて数が多い。ただし、幼稚園の訪問者の数は、園児の保護者も数えている場合が多いようであり、子どもの数は正確にはわからなかった。

(考察) 仙台市内ではほとんどの小学校が、校外学習の場として八木山動物園を活用していることがわかった。毎年動物園に来る学校もあれば、2 年～4 年に一度の訪問と決めている場合もある。また、幼稚園の 8 割程度も、毎年ではないにしても、動物園を活用している。もっとも活用の度合いが低いのは保育所であるが、その理由としては、「遠いから」「普段から家族利用している場所なので、保育所としてあえて訪問する対象にしていない」「ただ見に行くだけでは意義が薄いから」などが挙げられていた。保育所の受け入れをよりいっそう進めるためには、幼児が有意義に園内で過ごせるような教材やプログラムの支援が必要であると考えられる。

### 4-2. 利用の枠組みについて

(結果) 仙台市内では、2 年間の間に八木山動物園を利用した小学校(106 校)のうち 84 校(79.2%)で、1 年生が訪問したと回答している。2 年生が訪問(5 校, 4.7%)および 1・2 年生が訪問(13 校, 12.3%)を合わせると、ほとんどの学校では、1・2 年生だけが動物園を利用していることがわかる(102 校,

96.2%)。その他の学年としては、全学年(1校)、3年生(1校)、5年生(2校)というものがあつた。

教育課程の中では、生活科で利用したと回答したものが全体の72.6%であつた(図2)。生活科で利用している場合は、図工や国語などとの教科も一部組み込んでいる場合があつた。また、遠足による利用が22.6%あつた。小学校3年生以上の学年では、「特別活動」以外にも「総合的な学習の時間」実施の一環で訪問している場合があつた。

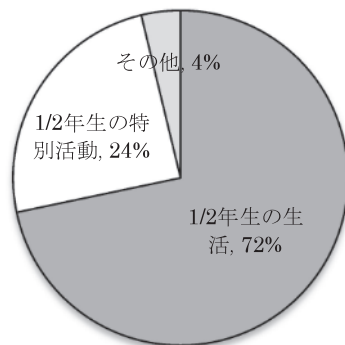


図2. 市内小学校の利用のうわけ(N=106)

一方、保育所・幼稚園では「遠足」または「園外保育」の枠組みで動物園を訪問していることや、記述の内容から多くの場合は保護者同伴であることがわかつた。

市外の小学校では、利用のあつた62校のうち、最も多かつたのは、市内と同様に利用者が1年生・2年生であると答えた学校で、合わせて全体の40.3%(25校)にのぼる(図3)。このうち96%(24校)は宮城県内の小学校であつた。教科ではなく特別活動の枠組みで訪問を行つていた学校(13校)と教科「生活」で訪問を行つた学校(12校)の割合はほぼ同数であつた。

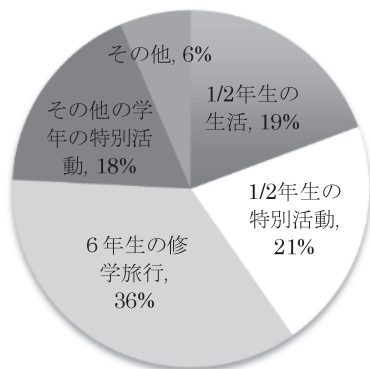


図3. 市外の小学校による利用のうわけ(N=62)

た。ついで多かつたのは、6年生(21校、33.9%)である。これらの6年生はすべて、教育課程上「特別活動」または「修学旅行」として訪問を位置づけている。学校の所在地は、岩手県(14校)が最も多く、秋田県(4校)、山形県(3校)、福島県(1校)であつた。

(考察)小学生について見てみると、仙台市内の小学校および、宮城県の一部からは、教科「生活」の一環あるいは特別活動(遠足)を実施する目的で、小学校1、2年生が動物園訪問を実施していることがわかつた。一方、市外、とくに県外の小学校からは、修学旅行を含む特別活動の一環として6年生が来ることが多い。これらに当てはまらない少数の学校が、特別活動や総合的な学習の時間などで動物園を活用し、学年もばらばらであつた。

一方、幼稚園・保育所では、親子遠足、園外保育などの名称で、動物園を訪問していることが多かつた。

#### 4-3. 活動の内容

(結果)教科「生活」の一環で動物園を訪問していた89の小学校で、どのような「ねらい」をもって動物園を訪問したのか自由記述形式で尋ねたところ、もっとも多かつたのは「動物の観察・動物とのふれあい」で、80校が挙げていた。ついで、「グループで協力して楽しく活動する」(37校)、「公共の施設でルールやマナーを守つて活動する」(23校)といったねらいが挙げられた。その他、個別に「国語の教科書に出てくる動物を実際に見てたしかめるため」といった記述も見られた。園内では、観察、グループ活動を実施している学校がほとんどであつた。「特別活動」などで動物園を訪問した小学校のねらいも、教科「生活」とほぼ同様で、動物の観察、グループ活動、公共の施設の活用が多く挙げられていた。

「生活」の授業で動物園を訪問する小学校1、2年生の、園内における平均活動時間は3.3時間であつた。仙台市内の小学校(平均3.4時間)は、宮城県・福島県の小学校(平均2.8時間)より長く活動することができているようであつた。

一方、「特別活動」で動物園を訪問した小学校の滞在時間は平均で2.6時間と、「生活」による訪問校より短かつた。仙台市内の小学校(平均3.2時間)や宮

城県の小学校（2.8時間）の場合は、「生活」の校外学習による活動時間とほぼ同様であったが、秋田県（1.4時間）、岩手県・山形県（それぞれ1.5時間）、福島県（2.6時間）と、距離が遠い県から来る小学校ほど、滞在して活動する時間は短くなるようであった。

同様に、学年別に利用時間を見ると、小学校1、2年生の活動時間は平均3.3時間であるのに対して、もう一つの利用のピークである小学校6年生は活動時間が1.5時間と、短いことがわかった。

これらすべてを合計すると、小学生の活動時間は、全体として、平均3.0時間（最短30分、最長6時間）であった。一方、保育所は平均活動時間が2.1時間、幼稚園は2.5時間であった。

（考察）予想されたとおり、教科「生活」で動物園を訪問した場合は、学習指導要領の内容（4）の“公共物や公共施設を利用する”，内容（7）の“動物を飼ったり植物を育てたりする”，内容（8）の“自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う”に関連する活動として、動物園を訪問していた（文部科学省、2008）。活動の内容としては、ワークシートを持ってグループごとに園内を回り、動物を観察し、お弁当を食べる、というコースが一般的なようである。また、特別活動（修学旅行を含む）でも、内容としては同様の取り扱いをしているようであった。

幼稚園、保育所ではともに、訪問のねらいとして、動物を見ることでさまざまな興味関心を高める、親子や友達とのふれあいを楽しむ、の2つが、大きな目標となっている。

小学校1、2年生がで動物園を訪問した場合は平均3時間ほど、園内で活動していることがわかった。幼稚園、保育所の活動時間はそれよりやや短い。

小学生の活動時間は、学校が動物園から遠いほど、短くなるようであった。また仙台市外から来ることが多い小学校6年生は、平均1.5時間ほどしか活動時間がないことがわかった。遠くから来て、短時間しか滞在することのできない校舎が少なくないことから、より効率的に園内で活動できるような展示の工夫や、事前事後学習のための教材の提供、短時間で実施できる園内プログラムの開発提供など、さまざまな工夫が考えられる。

#### 4-4. 事前・事後学習

（結果）小学校、保育所、幼稚園のいずれにおいても、事前・事後学習は行われている。校種別に見ると、事前学習は小学校1,2年生が平均1.9時間、小学校6年生が2.3時間であった。小学生の事前学習時間は、保育所（1.8時間）や幼稚園（1.4時間）より長かった。事後学習も同様に、年齢が高いほど時間数は多く、保育所（1.3時間）、幼稚園（1.5時間）よりも小学校1.2年生や6年生（いずれも2.2時間）のほうが長かった。

小学校低学年の児童が生活や特別活動で訪問する場合は、事前学習の時間に、目当て、日程、持ち物、約束の確認（公共の施設を利用するにあたってのルールの確認）を行っている。また、グループ活動を実施する学校が多く、グループごとに話し合いをして、コースを決めたり観察する動物を選んだりしていた。ワークシートの使い方を説明したり、教科書やDVDを用いて動物観察のモチベーションを高めている学校も少なくない。事後学習では、ワークシートを完成させ、見つけたことの発表会を行う学校や、学習カードに見つけたことを書いて互いに紹介しあう学校、作文や絵で振り返りを行う学校が多い。しおりの中に含まれている動物クイズの答え合わせをする、グループ活動についての振り返りをする、学級でクイズ大会をする、などの回答もあった。

修学旅行で動物園を訪問する学校では、いずれも事前に調べ学習を行っていた。動物園への行き方や施設の概要、動物の種類などを、ホームページなどから調べて、見学の計画を立てているようである。事後学習では、パンフレットや新聞を作るさいに、感想や見どころ、撮影した写真を用いている。

比較的学習の内容が似通っている小学校に比べて、幼稚園・保育所の事前事後学習は多様である。

保育所では、「動物の絵本を何冊か読んで関心を高める」「図鑑を見る」「動物園の大まかな地図に、動物の絵を貼る」「動物の鳴き声（名前あて）クイズ・動物の名前を使ってフルーツバスケットをする」「パンフレットを見ながらコースを話し合う」など、動物そのものに関心を高めるための工夫を多く行っていた。また、「バスごっこ遊びをする」などの、公共の施設利用に関する学習も行われている。事後学習では、経

験画を描く園が多く、それ以外にも、楽しかったことの話し合い、動物クイズ、遠足ごっこ（再現）など、遊びや創作に絡めての活動が行われている。

幼稚園の事前事後の活動は保育所のそれと共通するところが多く、例えば事前学習では「動物のまねごっこ」「歌、手遊び」のような遊びも行われているが、「約束事の確認」「見学コースの説明」など、活動計画を明確に周知することにも多くの時間を割いているようであった。事後の学習は、ほとんどが経験画の作成であるが、ほかにも動物園のマップ作り、感想発表、動物の動きの身体表現などが行われていた。

(考察) 小学校の低学年児童はグループ活動で動物園マップを片手に園内を回るため、事前事後学習ではその準備や振り返りが行われる。高学年の修学旅行では、インターネットを用いて学習計画を立て、事後学習では新聞作りなどを実施している。修学旅行における動物園は、旅行中に訪問した場所のうちの1つと位置づけられるようである。このように、小学校の学習活動はどこでも殆ど同じ形式で実施されていることが伺われる。それらの学習を支援する方法として有効なのは、ホームページ上の情報をより一層充実することである。また、低学年児童のために書き込みのしやすいマップやワークシートづくりのヒントなども、教員にとっては有用であると考えられる。ただし、インターネットにおかれる情報は、子どもたちがアクセスすることを考えても、「何でもあればよい」ということにはならない。アクセスやルートなど、短時間の訪問を支援するための情報はわかりやすく正確であるべきだが、動物そのものについては、「本当のことは、実物を見ないとわからない」というモチベーションをかき立てることが重要であろう。

一方、幼稚園や保育所の活動には、五感を用いた遊びによって子どもたちの興味関心を高める手法が多く見られる。動物園の訪問は、子どもたちにとってその日一日の体験ではなく、多様な体験活動を繰り返すきっかけになっている。このような多様な事前事後の活動についても、さまざまなやり方があることを、教員が学ぶ機会があることが望ましい。

#### 4-5. 動物園の教育的価値

(結果) 小学校が動物園を訪問学習の場として選んだ理由は、まず「動物とふれあえるから」で、全体の84.5%にのぼった。次に多かったのは、「安全だから」(60.7%)である。「入場料が減免になるから」「移動時間が短いから」は、それぞれ42.9%と38.1%であった。幼稚園、保育所ともほぼ同様の傾向が見られたが、特に幼稚園では「安全だから」が理由に挙げられることが多かった。

また、動物園訪問の感想を訪ねたところ、全体の24.7%が、「とても満足」と答え、「満足」と合わせると、83.1%が満足していた。校種別では、小学校の87.2%が満足と評価していたのに対して、幼稚園では73.7%、保育所では71.4%であった。

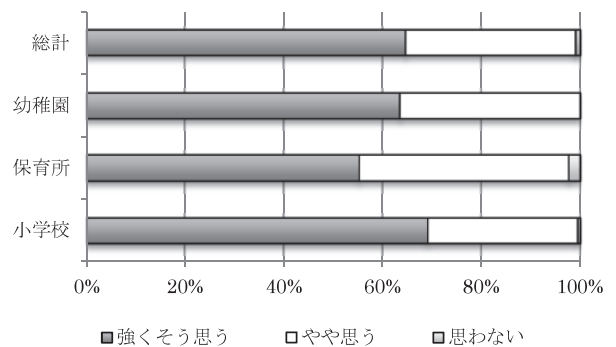


図4. 動物園訪問の満足度

満足していた学校園からは、「動物を間近で観察することができてよかった」「子どもたちが楽しんだ」といった回答が多かった。不満、あるいはとても不満と回答した学校等はほとんどなかったが、挙げられたコメントとしては、「団体利用が多くて混雑していた」「雨が降ったのに、雨宿りをできる場所がなかった」がある。

また、「教育の場として動物園に意義があると思いますか」という質問に対しては、全体の63.1%が「強く思う」と回答していた(図5)。

肯定的な理由として、「日頃見ることのできない動物が直接見られるから」「学校で動物を飼育することが難しい」「身近なところに生き物がいることで、自然や動物への関心が高まる」「環境への関心が高まる」「体験活動が不足しているから」「生活科、理科、学校

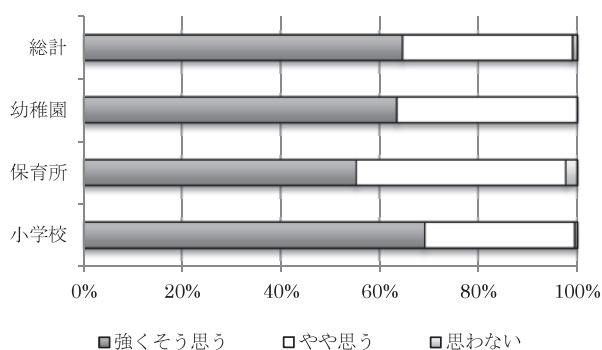


図5. 動物園に教育的意義があるか

行事で有効に活用できるから」「動物愛護や生命尊重の気持ちが育つ」「命との関わりは、今日的な課題である」「安全な環境の中で子どもたちに自主的な活動ができるから」「児童によるグループ活動ができる」などの意見が、それぞれ多く寄せられた。

「意義があると思わない」とした回答はほとんどなかった(3)が、理由としてはすべて「活用の方法を思い当たらない、利用したことがない」ということであつた。

(考察) 動物園で学習を行った学校の満足度は比較的高く、また動物園に学習の場としての意義があるという肯定的評価が圧倒的であつた。その理由としては、当然のことであるが、本物の生き物を観察する貴重な場であるということが第一点である。これが、学校の生活科教材として有効である、生命尊重の心を育てる、といった意見に結びついている。子どもは動物が好きであり、見ただけで子どもたちが楽しめることから、「楽しい思い出を作る場」としても機能している。

もう一つの重要な点は、「動物園は安全な場所である」という考えが、広く学校関係者の間に共有されていることである。確かに、動物園内では一般車両は走行しないし、設備も整っている。迷子になる心配もないため、小学校低学年の訪問では、児童が大人のつきそいなしにグループ活動をする場として使われている。また、幼稚園でも、保護者のつきそいなしに大勢の園児を引率できる場としての安心感が大きいようである。多くの子どもたちが利用する場であるという視点から考えても、動物園の安心・安全の保全是、今後いっそう、動物園に求められる条件となってくるであろう。施設の整備や防災、事前の情報提供、子どもたちが直面し

やすい危険の把握などに常に配慮する必要がある。

#### 4-6. ふれあい動物園への期待

(結果) すでに述べたように、八木山動物公園ではふれあい動物園を現在計画中である。ふれあい動物園は、「生活」「道徳」「特別活動」で活用したいと考える学校園が多かった。また、ここでどのようなことを子どもたちに学んで欲しいか、自由記述で尋ねたところ、回答は大きく6つに分けられた。「命の尊さ・大切さ・温もり・思いやり」「動物観察」「飼育の責任」「生物の多様性・生命の連続性」「働くこと・飼育の苦勞」「ふれあう喜び・癒やし」である。それらの中で、ほとんどの学校園が触れていたのが、「命の尊さ・大切さ・温もり・思いやり」である。

ふれあい動物として、希望が多かったのは「ウサギ」「ヤギ」「ゾウ」「馬」「ヒツジ」「モルモット」などであるが、非常に多くの種類の動物が挙げられていた。

(考察) アンケートの各所に、「動物とのふれあい」を要望する声が聞かれており、ふれあい動物園への期待は高いと感じられた。たくさんの生き物とふれあいたい、餌をやりたい、などの要望がある一方で、アレルギー対策や衛生面への配慮などを求める声もある。

#### 4-7. 動物園利用の感想、期待、要望

動物園を訪問し利用した学校等からは、非常に多くの感想や要望が寄せられた。要望の中には、施設に関するハード面のもの、サービスやプログラムの提供などのソフト面に関するもの、動物展示に関するもの、に分けることができる。

ハード面で最も多かったのは、休憩所(屋根のある場所)に関するコメントであつた。学校園が動物園を活用する場合、昼食を園内で取ることが多い。しかし、どうしても同じ時期に利用が集中するため、場所が足りない、雨天時に活動が制限される、などの問題が起きているようである。これらを回避するためには、混雑を緩和する対策を取ることが最も近道であろう。学校側から提案されていたように、あらかじめ、ホームページでその時期の混雑状況や団体利用予約についてチェックできるようになっていることが望ましいかもしれない。また、雨天時の活動場所としては現在もビ

ジターセンターがあるが、より内部の展示やプログラムを充実させていくことが望ましいであろう。

ソフト面では、ふれあいイベントへの期待、解説板の充実や更新、ワークシートの要望、展示の文字を子どもにもわかりやすいものにする、動物の給餌時間の掲示、イベントのわかりやすい掲示、などを求める意見が多かった。その他にも、出前授業、予約状況のホームページ表示、ボランティアなどの人的支援、などが要望として挙げられていた。

動物展示に関しては、動物が動くところを見られるよう、行動展示にしてほしい、よりいきいきとした動物がよく見られるような飼育施設が望ましい、などの記述のほか、身近な動物を見たい、それとは反対に教科書に出てくる珍しい動物を見たい、という学校らしい要望もあった。

寄せられた期待を見ると、体験学習の場としての期待は高い。動物園は、動物への興味関心や命の尊さを伝える場所であるとともに、大人も子どもも楽しめる場所であり環境問題など社会教育の場であるとの意見も多かった。

## 5. おわりに

これらのアンケート結果からは、これまでに十分検討されてこなかった、様々なことがらが明らかになってきた。動物園では、これまでは、団体客の利用に合わせてジターセンターを整備し、解説看板を充実してきたほか、休憩所、トイレや時計などについても検討

や改善が行われて来た。ふれあい動物園の計画も、学校の団体利用を少なからず念頭に、検討がなされてきたといえる。しかし、学校側からは、予想を超える多様な要望があることも明らかになってきた。学校や地域社会の変容とともに、地域における体験的な学習の意義が高まり、子どもたちが生き物とふれあう環境の創造は、これまで以上に重要なものになっていると言えるであろう。

本稿では回答の一部を分析するに留まった。アンケートの結果全体は、今後の動物園の教育活動および、動物園の教育活動支援に役立てていく予定である。

## 参考文献

文部科学省, 2008. 学習指導要領解説 生活編.  
仙台市八木山動物公園, 2012. 八木山動物公園年報 平成24年度.

## 謝辞

本アンケート調査の実施にご協力を頂きました仙台市教育委員会、企画時からご尽力を頂いた八木山動物公園の大内利勝園長、遠藤源一郎前園長、三塚尚義元飼育展示課長、アンケート作成にあたりご助言を頂いた八木山動物公園飼育展示課の各位にこの場を借りて感謝申し上げます。また、貴重な時間を割いて回答にご協力いただいた小学校、保育所、幼稚園の皆様にお礼を申し上げます。

八木山動物公園の利用に関するアンケート調査 (回答用紙)

学校名 \_\_\_\_\_ 記入者名 \_\_\_\_\_

1 貴校園で平成25年度または平成24年度に、教育の一環として動物園を利用しましたか。

はい  いいえ  
 いいえの方は理由を教えてください。  
 ( )

→1で「はい」とお答えの場合、質問2以降へ進んでください。「いいえ」の場合、質問9以降へ。

2 最近の利用の実態について、お聞かせ下さい。

児童 \_\_\_\_\_ 年生 / 合計 \_\_\_\_\_ クラス  
 児童合計約 \_\_\_\_\_ 名 / 引率約 \_\_\_\_\_ %  
 訪問日 \_\_\_\_\_ 月、( 平日 土曜日 休日)  
 滞在時間の合計 (おおよそ) \_\_\_\_\_ 時間

3 活動の枠組み (複数回答可)。

教科 (教科名: )  
 特別活動  
 その他 ( )

4 動物園を活動の場に進んだねらい・理由を教えてください (複数回答可)。

ねらい  
 安全だから  安全だから  
 移動時間が比較的短いから  
 動物とふれあいたいから  
 その他 ( )

5 当日の園内の活動内容を教えてください (複数回答可)。また、簡単な活動日程をお示しく下さい。

動物の観察  グループ活動  
 スケッチ  飼育員のお話  
 動物ふれあい体験  お弁当  
 ワークシート学習  
 その他 ( )  
 日程 (※あれば資料のコピーをご提供下さい)  
 ・学校出発おおよそ \_\_\_\_\_ 時・動物園到着おおよそ \_\_\_\_\_ 時  
 ・園内活動時間 おおよそ \_\_\_\_\_ 時間  
 ・屋食等その他の時間 おおよそ \_\_\_\_\_ 時間

6 事前・事後学習の概要を教えてください (1時間≒45分として)

事前学習: 約 \_\_\_\_\_ 時間  
 概要:  
 事後学習: 約 \_\_\_\_\_ 時間  
 概要:

※ 学校での学習の過程がわかる資料などございましたら、コピーを同封いただけると幸いです。

7 動物園学習の感想・要望を教えてください。

良い・悪いのいずれかをまるで囲み、その理由を教えてください。  
 ◎リーフレット・案内看板など園内の案内について  
 良い・悪い  
 理由、その他の感想・要望

◎休憩所・トイレ・手洗い水道・時計など施設の配置やデザイン・数・利用状況について

良い・悪い  
 理由、その他の感想・要望

◎動物の展示方法について  
 良い・悪い  
 理由、その他の感想・要望

◎解説看板・モニターセンター展示など動物に関する情報提供ややる発表・ふれあいやイベントについて  
 良い・悪い  
 理由、その他の感想・要望

◎学習利用に関する情報提供  
 動物園学習 (劇場訪問等) 利用申込について  
 良い・悪い・知らなかった  
 刺戟など標本の貸出について  
 良い・悪い・知らなかった  
 理由やその他の感想・要望

8 動物園にどの程度満足しましたか。  
 非常に満足 — 普通 — 非常に不満  
 5 — 4 — 3 — 2 — 1 (←1つ選ぶ)  
 理由:

9 教育の場として動物園に意義があると考えますが、強く思う—やや思う—そう思わない  
 1 — 2 — 3 (←1つ選ぶ)  
 理由:

10 動物園が学習を支援することは必要だ (あるいは望ましい) と思われますか。  
 強く思う—やや思う—そう思わない  
 1 — 2 — 3 (←1つ選ぶ)  
 理由:

11 八木山動物公園では、「ふれあい動物園」を計画しています (平成27年度開園予定)。この施設の目的は、動物とのふれあいを通じて命の尊さや思いやり、温もりなどを感ずってもらうことです。

1. どのような枠組みで活用したいですか? (複数回答可)  
 教科 (教科名: )  特別活動  
 その他 ( )  
 2. 子ども連に何を学んでほしいですか?  
 3. そのために、どんな動物とふれあいたいですか?  
 4. その他ご要望があれば教えてください。

12 学校で動物を飼育していますか  
 はい・いいえ  
 はいの場合、種類と数

いいえの場合、飼育してない理由 (複数回答可)  
 健康管理が大変  入獣共通感染症が心配  
 飼育費用  長期休暇中の世話  
 土日の世話  平日の世話  
 その他 ( )

13 動物園の役割について、期待されていることやその他の要望がありましたら、お聞かせ下さい。  
 ご協力いただき、どうもありがとうございました。